

西宮市データ活用指針（概要版）

令和5年12月
西宮市

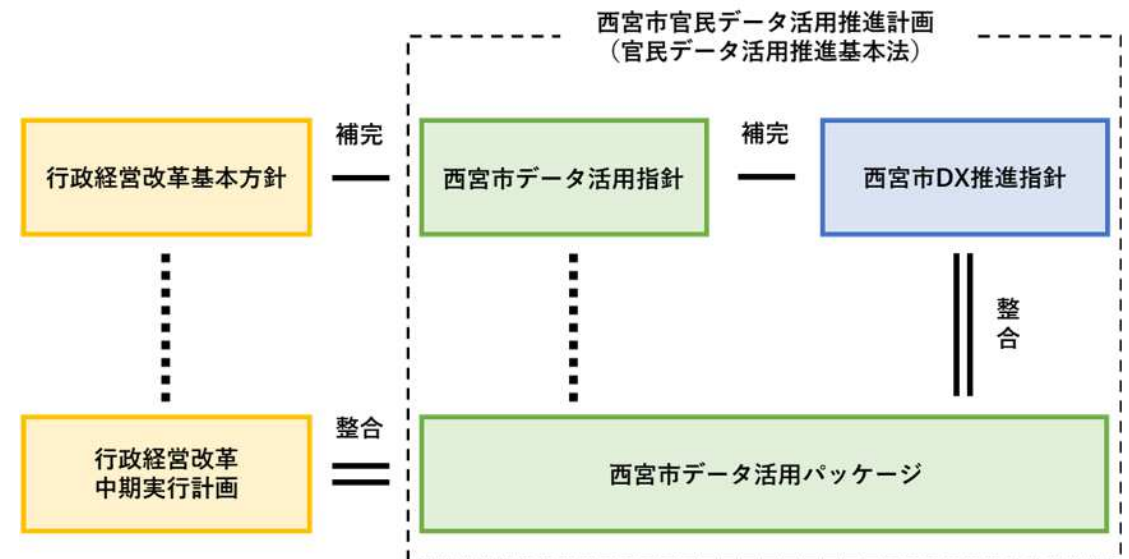
「西宮市データ活用指針」の目的と位置付け

指針の目的

- 少子高齢化の影響などによって本市の行財政が弾力性を失いつつある中、持続可能な行政運営や市民サービスの更なる充実を図るには、これらをより効率的かつ効果的に実施することが求められます。
- そのためには、多くの場面で見られる「なんとなく」やKKD（勘・経験・度胸）による政策形成や意思決定からの脱却を図り、データに基づく現状分析や将来予測を踏まえた政策形成に移行していくことが急務となります。
- 本指針は、行政運営におけるデータ活用の重要性の高まりを踏まえ、データ活用の意義や全庁的な方針などを示すことにより、すべての職員がデータの重要性を意識するとともに、適切な進め方の下、データ活用を適切に実施できるようにすることで、データ活用が文化として定着するための土壌を作り出すことを目的としています。

指針の位置付け

- 「西宮市行政経営改革基本方針」における取組を具体的に補完するとともに、「行政経営改革中期実行計画」と内容的に整合しています。
- 「西宮市DX推進指針」における取組のうち、データ活用に関するものを具体的に補完します。
- 「西宮市DX推進指針」とをあわせて官民データ活用推進基本法に基づいて定める「西宮市官民データ活用推進計画」の内容を反映します。



データ活用に向けた対応の方向性

データ活用に係る方針

- 「データ活用ロードマップ」や「ロードマップの実現に向けた工程表」に従って実際のデータ活用やその結果を踏まえた政策形成などを実施することで、持続可能な行政運営や市民サービスの更なる充実を着実に実現します。
- その際、政策目標に紐づいた計画的なデータ活用の推進につなげる観点から、データ活用の具体的な内容などを「西宮市データ活用パッケージ」として取りまとめます。

データ活用ロードマップ

- データ活用を通じて持続可能な行政運営や市民サービスの更なる充実を実現するためには、人材育成などを含め段階的にデータ活用の浸透や高度化を進めていくことが必要です。そうした観点から、以下のとおりデータ活用に関するロードマップを定めます。

短期（令和5・6年度）

- 西宮市データ活用指針及び西宮市データ活用パッケージを策定し、全庁的な方針などを決定する
- 事務事業評価等において、データ活用の結果を意思決定につなげる仕組みを構築する
- データ活用に関する研修を通じ、職員のデータ活用に関するスキルやリテラシーの向上を目指す

中期（令和7～10年度）

- データ活用に係る基盤構築を行うとともに、データのフォーマットや収集方法の統一化などを行う
- 西宮市データ活用パッケージ記載の項目の一部を実施するとともに、項目の追加や拡充を行う
- データ活用に関する研修の充実により、職員がより高度なスキルやリテラシーを獲得する

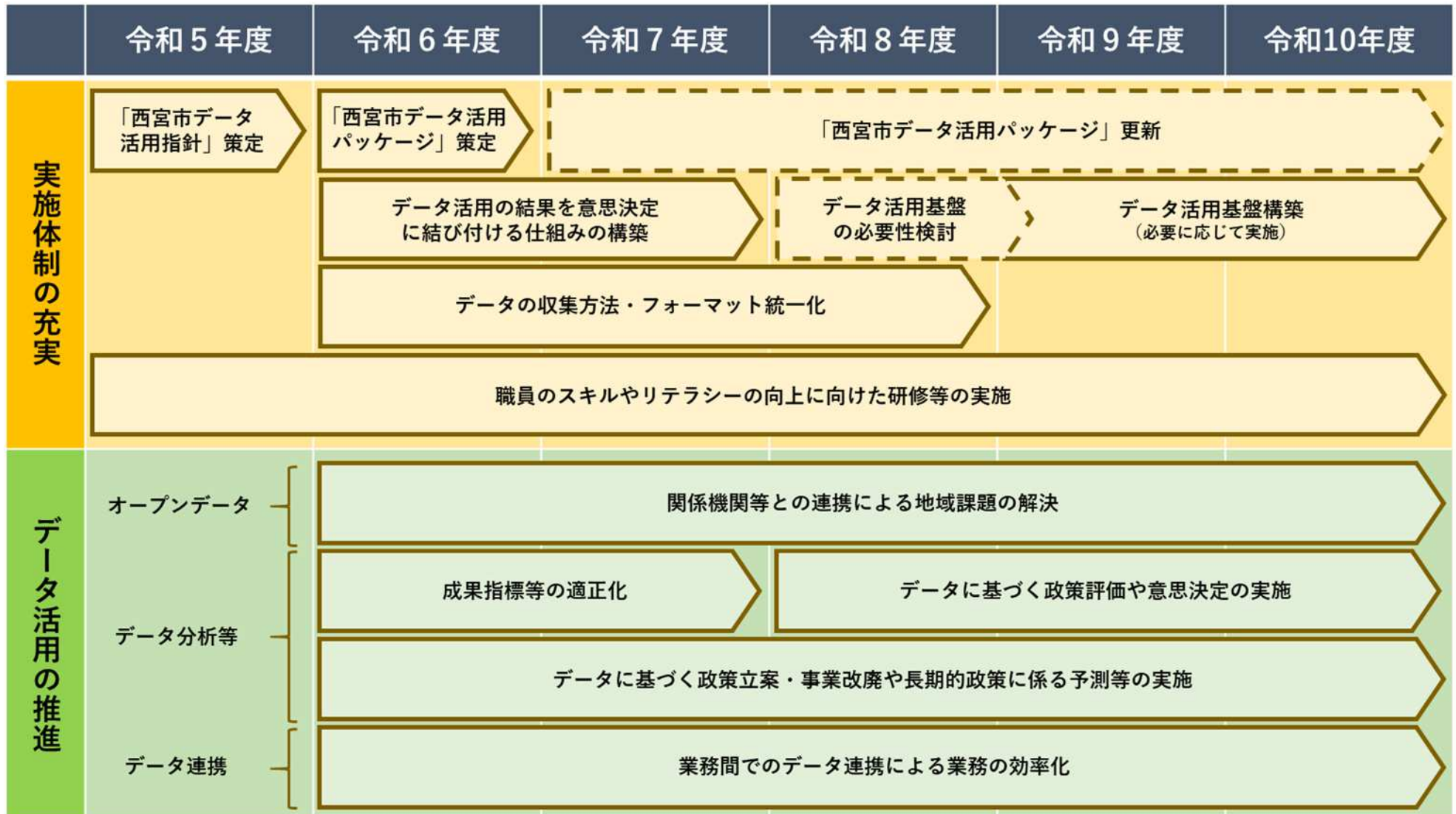
長期（令和10年度～）

- 幅広い分野や業務でデータ活用を行うとともに、データを活用した地域課題の解決などにも取り組む
- データによる意思決定や業務連携が浸透し、持続可能な行政運営や市民サービスの充実が実現する
- 全ての職員がスキルやリテラシーを身に付け、データの理解だけでなく、積極的な活用が可能となる

データ活用に向けた対応の方向性（つづき）

ロードマップの実現に向けた工程表

- 「データ活用ロードマップ」を実現する上で計画的な対応が必要になります。そうした観点から、以下のとおりデータ活用ロードマップを実現するために短期・中期で実施すべき事項を工程表として定めます。



データ活用に向けた対応の方向性（つづき）

西宮市データ活用パッケージ

- データ活用と政策目標の関係やデータ活用の全体像を明示するため、データ活用に先立って「西宮市データ活用パッケージ」を作成します。学術機関等の第三者を交えて内容の適正性を確認するとともに、内部事務改革・DX推進部会において内容の確定を行うこととします。

西宮市データ活用パッケージ

I 行政運営の合理化・効率化を進める

① ○○事業の対象者数に関する主要な変動要因分析・将来予測

○○局○○部○○課

背景・目的	○○が社会的な課題となる中で、本市の○○事業の対象者数に関する主要な変動要因についての分析を行うとともに、その分析結果を踏まえた対象者数の将来予測を行うことで、将来的な財政への影響を把握する。		
仮説	関連文献において○○率や○○件数などが○○事業の対象者数に影響するとされており、○○率や○○件数を説明変数とするほか、そこに○○認定件数を加えることで、より精度の高い変動要因分析が可能であると考えられる。		
選定データ	○○率（国統計；20年）、○○件数（当課保有；20年）、○○認定件数（他課保有；20年）	取得方法	国統計はインターネットから取得、他課保有データは匿名加工処理を行った後取得
代替データ	○○申請件数（○○認定件数の代替データ）	活用後の取扱い	特別の定めのあるデータを除き廃棄
活用プロセス	○○事業の対象者数を被説明変数とし、○○率、○○件数及び○○認定件数を説明変数として、過去20年分のデータを用いた重回帰分析を行う。そこでの当てはまりが悪い（ R^2 値が低い）場合は、再度仮説の見直しを行う。		

II こどもの暮らしや学びの充実を図る

① ○○件数の見える化

データ活用に向けた対応の方向性（つづき）

データ活用の更なる充実に向けた対応

データ活用に関する知識の深化

- 「西宮市データ活用指針」や「西宮市データ活用パッケージ」に基づくデータ活用の実施によってデータ活用の充実を図ることが可能となりますが、これをさらに充実させるためには、職員がデータ活用に関する知識を深め、正確な知識や技術を基礎にデータ活用を実践することが重要となります。
- そのためには、データの活用ツールなどといった実践的な知識だけでなく、法令に関する知識や歴史・理念などに関する知識など、多様な知識を深めることが望ましいですが、こうした知識は、職員のみで深化を図ることが難しい場合もあるため、学術機関等とも連携しつつ知識の習得を行うこととします。

政策形成や意思決定への結び付け

- データ活用は、それを実施すること自体に一定の意味がありますが、データ活用から導き出された結果を政策形成や意思決定と有機的に結び付ける仕組みを構築することで、データ活用がより大きな意味を持つようになり、データ活用の更なる充実にもつながります。
- 現状、本市には多様な政策形成や意思決定のツールがあるところ、その中でも事務事業評価はデータ活用との親和性が高いと考えられるため、様式にデータを用いた評価事項を加えるなど、適切に仕組みの見直しを行うこととします。